

平成30年3月19日

足立区立湊江中学校  
学校長 本杉 貴保 様

足立区立湊江中学校 開かれた学校づくり協議会  
山本 輝夫

## 平成29年度 学校関係者評価書

### 1. 自己評価書全般について

平成29年度自己評価書の分析は適正に評価されている。前年度の課題である学力向上に取り組む学校側の努力は評価したい。授業診断・学校生活診断に関しては学校長の方針のもとに教職員の連携が成果を発揮した。学校の連帯感は教職員の波動によって生徒に連動し、生徒の自主性と協調性が学校三大行事に「一人一役の体験活動」に遺憾なく発揮された。

生徒・保護者の評価については「湊江中に入れてよかった、入学してよかった」・「学校が楽しい、楽しいと言っている」について昨年と大きな変化はないが、学力と体験活動に学ぶ総合的な学校経営は評価されている。

また、授業診断・学校生活診断は特に、学校側の課題に取り組む方向が明確に示され、学力の定着と学習意欲の向上に向けての実践は評価されたい。実践と成果が結びつくには家庭の問題も否めない部分がある。今後の課題として、家庭学習の向上は学力の定着に繋がり、生徒の「一人一人が輝く、自己肯定を高める学校」へ進化したい。

### 2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

本校から示された課題は明快である。学力向上は生徒自身が学ぶ楽しさを知ること。また教師は教える楽しさを知ることから始まり、学力定着は生徒の将来に関わる重要な課題だ

学ぶ楽しさを体験するには、感動する教師と出会うことが重要だ。本校の特色は運動会・文化祭・合唱コンクール（三大行事）を通じて、生徒と教師が矜持する体験学習は三年間に亘り関わる。クラスメイトの信頼、同学年の連携、全校生徒が体験し連帯意識を学ぶ伝統ある行事は昨年同様である。

保護者・地域としてPTA・湊江中湊和会・開かれた学校づくり協議会の役割も重要だ。生徒会の応援団であることと、学校、教職員のよき理解者であることは湊江中学校を取り巻く地域の伝統は受け継がれている。今後も引き続き誇れる中学校として協力し、学校の発展に寄与したい。

### 3. その他

湊江中学校と地域は相関関係にあり、学校の発展は地域の発展に繋がる。そして地域の誇りとなる。学校は生徒を毎年、輩出し地域の活力となる。地域の活力は豊かな人を育み、地域力は豊かな社会を創る。学校は学びと体験の中で、人間力を生み出し無限の広場から未来へ送り出す中学校である。